

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

- 1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
- 2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
- 3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

- 1. 「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）
 - (1) 新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。
 - ア 校内外における研修等により持続的な授業改善を推進する。
 - ※「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 82%、R5 85%、R6 78%）。
 - ※ 生徒の授業アンケート結果で3.40以上を維持する（R4 1回め①3.45、2回め②3.47 R5 ①3.45、②3.51 R6 ①3.41、②3.46）
 - イ 『主体的・対話的で深い学び』の実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。
 - ※令和9年度までに85%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施する（R4 91%、R5 81%、R6 78%）
 - ※令和9年度までに85%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（R4 88%、R5 89%、R6 82%）
 - ※令和9年度までに70%以上の生徒が1人1台端末を効果的に活用している授業が多いことを実感できるようにする（R4 63%、R5 73%、R6 67%）
 - ウ 入学時の学力を卒業まで維持・発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。
 - ※「授業の予習、復習は『できている』『まずできている』を令和9年度までに55%以上にする（R4 52%、R5 51%、R6 49%）
 - ※「授業の予習、復習は『できていない』を令和9年度までに5%以下にする（R4 9%、R5 9%、R6 9%）
 - エ 新学習指導要領における新カリキュラムと観点別学習評価が一巡したことを踏まえ、全学年でより安定した実施ができるようにする。
 - 2. ICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応
 - (1) ICT機能を活用して、学校休業時や、感染症の罹患者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。
 - ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、感染症の罹患者等の学習補完を充実する。
 - イ GIGAスクール構想における1人1台端末の活用をすすめ、授業や学校行事等、教育活動全般においてICT活用推進を図る。
 - 3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望進路の実現
 - (1) 様々な偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。
 - ア 様々な偏見を許さないとともに、生徒、教職員に対して、多様性を認めあい共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。
 - ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 88%、R5 89%、R6 82%）
 - ※「牧野高校の人権教育は、適切に行われている」の教員の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 84%、R5 80%、R6 74%）。
 - ※「牧野高校は、人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和9年度まで85%以上を維持する（R4 89%、R5 88%、R6 86%）。
 - (2) 生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割、使命を意識させ、希望の進路実現を図る。
 - ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持するとともに、学校行事、生徒会行事については、生徒・教職員の負担減につながるよう見直しをしていく。
 - ※体育祭や文化祭、修学旅行等について、生徒・教職員の負担減につながるよう見直しや修正、変更を検討する。
 - ※「部活動は活発である」への生徒の「よくあてはまる」の回答を令和9年度までに70%以上にする（R4 68%、R5 65%、R6 66%）。
 - ※「部活動と学習の両立ができている」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに80%以上にする（R4 74%、R5 74%、R6 69%）。
 - イ 生徒に、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。
 - ※進路講演会やイベントを行うとともに、外部講師による講演等の計画、実施を模索する。
 - ※「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに80%以上にする（R4 78%、R5 80%、R6 70%）。
 - ※「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに85%以上にする（R4 88%、R5 88%、R6 82%）。
 - ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。
 - ※学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。
 - エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。
 - ※進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を図る。
 - ※令和9年度までに、大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（R4 63%、R5 68%、R6 59%）にするとともに、そのうち6教科型の出願者を35%以上（R4 25%、R5 31%、R6 19%）にする。
 - ※令和9年度までに、国公立大学の現役受験者を卒業見込者の30%以上（R4 10%、R5 26%、R6 17%）にして、現役合格者を卒業見込者の10%以上（R4 6%、R5 12%、R6 4%）にする。
 - ※令和9年度までに国公立大学と同志社大学の合計の現役進学者を卒業者数の15%以上にする（R4 14%、R5 15%、R6 10%）。
 - ※令和9年度まで国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業者数の60%以上を維持する（R4 65%（204/313名）、R5 66%（180名/271名）、R6 56%（157名/276名））。
 - 4. 教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - (1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分応えられる資質を養成する。
 - ア 教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。
 - ※「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を令和9年度までに85%にする（R4 87%、R5 80%、R6 76%）。
 - ※「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答を令和9年度までに80%以上にする（R4 82%、R5 80%、R6 74%）。
 - (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
1. 「確かな学力」の育成と授業改善	（１）「確かな学力」の育成と授業改善 ア 校内外における研修等による持続的な授業改善の推進 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの定着	（１）新学習指導要領が一巡したことや、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とのための授業改善を進める。 ア 校内外における研修等で持続的な授業改善を推進する。また先生方による授業観察期間を設け、授業改善に資するようにする。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTと１人１台端末を活用した授業等の実施機会を拡大、推進する。 ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけと幅広く多くの教科を学習することの大切さを様々な機会を通して指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと観点別学習評価が一巡したことを踏まえ、これらを全学年でより安定した実施ができるようにする。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を 80％以上にする【78％】。 ・生徒の授業アンケート結果で 3.40 以上を維持する【①3.41、②3.46】。 イ・ICTと１人１台端末を活用する授業を行う教員を 80％以上にする【78％】。 ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』を 50％以上【49％】、『できていない』を 8％以下にする【9％】。	
2. ICT活用授業の推進とGIGAスクール構想の推進	（１）感染症罹患等の学習補完とGIGAスクール推進 ア 感染症罹患等の学習補完 イ GIGAスクール構想推進	（１）ICT機器の活用で学校休業時や感染症罹患等の学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。 ア ICT機器を活用して学校休業時や感染症罹患等の学習補完を充実する。 イ １人１台端末の活用をすすめ、授業や学校行事等、教育活動全般においてICT活用推進を図る。	（１）ア・ICT機器やネットワークを活用した授業が多いと実感する生徒が 85％以上にする。【82％】 イ・「牧野高校は１人１台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答を 70％以上にする。【67％】	
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	（１）多様性、共生の意識醸成 ア 様々な偏見を許さないとともに、生徒、教職員の人権意識醸成の機会を作っていく （２）生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを維持するとともに生徒・教職員の負担減につながる行事等の見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実	（１）様々な偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア 様々な偏見を許さず、多様性を認め合い共生するための人権教育、人権意識醸成の機会を生徒は各学年で年間２回以上、教職員も年間２回以上行うようにする。 （２）生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持するとともに、学校行事、生徒会行事については、生徒・教職員の負担減につながるよう検討していく。 イ 大学進学等のその先 20 年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。	（１）ア・「命の大切さ社会のルールについて、学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を 85％以上にする【82％】。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答を 80％以上にする【74％】。 ・人権教育を生徒は各学年で年２回、教職員も年２回行う【１年２回、２年２回、３年２回、教職員２回】。 （２）ア・体育祭、文化祭は生徒・教職員の負担減につながるよう実施のあり方を検討する。 団数や競技種目の実施方法が変更になった体育祭を滞りなく実施する。 ・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答を 65％以上とする【66％】。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を 75％以上にする【69％】。 イ・進路に関する講演会等を各学年で年２回以上実施する【１年５回、２年３回、３年３回】。 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやす	

	ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の３要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望を進路実現させるための進路指導体制の充実	ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の３要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。 エ 入学から卒業までの全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて、進路指導部を中心に生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。	い」の生徒の肯定的回答を75%以上にする【70%】 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を 85%以上にする【82%】。 ウ「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。 エ・全国比較ができる模試を少なくとも１・２年は年２回、３年は年１回行い、学習の定着度や到達度を計るようにする。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込者の 70%以上【59%】、内6教科型の出願者を 30%以上にする【19%】。 ・国公立大学の現役受験者を卒業見込者の 20%以上【17%】、内現役合格者を卒業 者 数 の 5 % 以 上【4%】とする。 ・国公立大学と同志社大学の現役進学者を卒業 者 数 の 15%以上【10%】にする。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者を卒業 者 数 の 60%以上【56%】にする。	
4. 教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減	（１）教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修の充実 （２）「働き方改革」の推進による教職員長時間勤務の縮減 ア「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。	（１）教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア 教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。 （２）「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から校内行事や分掌業務、会議時間、部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議や業務にもさらに拡大し、会議時間縮減や、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化等で超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等も検討する。 ・新たな実効性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。	（１）教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を 80 % 以 上 に する【76%】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答を 80 % 以 上 に する【74%】。 （２）教職員の長時間勤務縮減 ア・会議・各種業務のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数を前年度より 3 % 削減する【R 6：40 時間 34 分】	